

進路だより

都立永福学園 肢体不自由教育部門
令和7年3月12日 発行
校長 緒方 直彦
No.6 文責 鈴木 督

日頃から本校の教育に御理解と御協力をいただき、ありがとうございます。

○卒業生のお話を聞く会を行いました（1月10日）

中学部3年生と高等部の生徒を対象に「卒業生のお話を聞く会」を実施しました。今年は、新宿区のあゆみの家（生活介護）に通う山本和輝さん、中野区障害者福祉会館（生活介護）に通う足立聡子さん、そして東京未来大学に通う小笹里緒さんの3名の先輩をお招きして、様々なお話を伺いました。



まずは現状報告です。生活介護に通う先輩たちからは、それぞれ30分から1時間程度、朝の送迎バスに乗る時間は遅くなり、帰りバス停につく時間は早くなった、というお話がありました。一方で、足立さんからは、学校生活で身に付けた習慣、例えば休日でも平日と同じスケジュールで過ごすことや立位や歩行を頑張ることで、規則的で健康生活を保っているというお話を伺うことができました。山本さんからは、在学中に頑張っていた部活動で行っていた「ハンドサッカー」は卒業生チームに入り、「ボッチャ」は地域の体育館で練習をしている、といった余暇のお話も伺いました。

小笹さんからは、大学での学習についてのお話がありました。心理学を専攻しており、8時15分から始まる講義を受けるために、家を6時45分に出て電車通っているそうです。また毎時間のレポートや単位履修のための長編のレポートが必要になることもあり、就寝は24時を回ることも多々あるそうです。しかし一方で交友範囲は広くなり、サークル活動や個人旅行なども楽しむ様子も紹介してもらいました。

後半は、「質問タイム」として、生徒たちが事前に考えた質問に回答してもらいました。

印象に残ったのは、「在学中に頑張っておいてよかったこと、もっと頑張っておいた方がよかったと思うこと」についてです。足立さんからは、友達との集団生活を通して、一人で時間を過ごせる趣味を持ち、順番を待つことができる力（生活介護事業所の介助員人数は学校に比較して少ない）が付いたこと、山本さんからは自分の意思を正確に伝える力が身に付いたこと（スイッチを利用してよいそうです）という回答がありました。小笹さんからは、大学で必修になる「英語」をより多く勉強しておく必要があること、総合型選抜



試験を受けるのであれば、資料を読み解いたり、自分の意見をまとめて文章にまとめたりする力が必要になることを教えてもらいました。

最後に鈴木からは、先輩の話聞いて気づいたことや、自分でもやってみようと思ったことがあったら、クラスで先生や友達と話したり、御家族とも共有したりして、将来の夢「なりたい自分像」を広げていくことの大切さを話しました。これからもそれぞれの自己実現の道、進路学習を進めていきましょう。また、「卒業生のお話を聞く会」のために先輩方が作成して下さったスライドは、中学部・高等部の廊下に展示してあります。授業時間では紹介できなかった質問への回答も掲載されていますので、ぜひ一度お目通しいただくことをお勧めします。



○進路学習会を行いました（1月22日）

中学部と高等部の生徒を対象に「進路学習会」を実施しました。全学部の保護者の方にも参加を呼び掛けたところ、約10名の皆様のご参加もありました。今年は、SMBCグリーンサービス株式会社にお勤めの、多摩桜の丘学園卒業生、大塚健様を講演者に、上司の黒田亜希様を助言者に「社会人になることと自立について」をテーマにお話をいただきました。



前半の講話では、社会人になった時には責任をもって物事を判断する場面が必ずあることと、その際「自分なりの基準」を持つことが必要であり、そうした判断基準をしっかりと持つためには、学生時代から「自分を知る」努力を重ねていく必要があるというお話が非常に印象的でした。

また、社会人として様々な家事や雑事などをすべて自分で行うのは不可能であり、不合理でもあるので、自分でできることを選んで行い、その他は思い切って「あきらめる勇気」（ヘルパーなどをお願いする）を持つべきだというお話も、卒業後の生活づくりを考える際に大切な示唆を与えてくれました。

後半は、生徒たちの事前アンケートに答えていただきました。その中で、他の社員の方と協力して仕事をするについての質問がありました。「一人でできる仕事の量はたかがしれています。急なスケジュールの変更への対応など仲間の力が必要です。ですから日ごろから『ありがとうございます』などの言葉を大切にしています」という大塚様のご回答は、金言であると思いました。また黒田様からは、職場で働くには、それぞれの人が得意なことを持ち寄り、助け合って仕事を進めていくことの大切さについてもお話いただきました。作業の時間などに強調される「協力」の大切さを改め



て感じとる良い機会となったのではないのでしょうか。

大塚様が作成してくださった「進路学習会」のスライドも2階中学部・高等部前の廊下に掲示してあります。2階にお立ち寄りの際は、こちらもぜひご一読をお願いいたします。



○高等部2年生 進路報告会を行いました（2月28日）

高等部1，2年生と中学部3年生、さらに新宿養護学校の中学部3年生を対象に「高等部2年生進路報告会」を実施しました。高等部2年生にとって初めての実習ということもあり、緊張感を伴う実習でしたが、引率教員の助けを借りつつ、目標達成に向けて努力をする姿について報告がされました。発表会でも一人一人が、立派に発表することもできました。



最後に鈴木から、「自分の気持ちを伝える大切さ」について話をしました。実際の実習で、給食のゼリーの味をリンゴとブドウから選ぶという場面があったのですが、自分だったらどうやって希望を伝えるのだろうか、全員で考えてもらいました。自分の意思を伝える方法は、視線や表情、指差しや文字盤を利用することなど様々な方法が考えられますが、自分に一番合った方法を見つけて欲しい、といった話をしました。また将来の豊かな生活づくりに向けて、御家族や教員だけでなく、幅広い人々にも自分の意思を伝える経験も重ねて行って欲しいと伝えました。

「いつでも」「どこでも」「だれとでも」の進路のポイントを大切に学習を進めていきましょう。



○高等部3年生の進路状況について

高等部3年生は、それぞれの進路活動を積み重ね、全員が進路を決定できました。これまでの経験を糧に、新しい出会いを大切にして、社会人としてさらに活躍して行ってください！



進路先の施設名	事業体系等
新宿区立障害者福祉センター トライ工房	生活介護
社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会 中野区障害者福祉会館	
社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会 かみさぎこぶし園	
社会福祉法人鶴足津会 マイルドハート高円寺	
杉並区立 なのはな福祉園	自立訓練
株式会社ゆたかカレッジ 高田馬場キャンパス	
社会福祉法人 邦友会 新宿けやき園	施設入所



3月は1年のまとめの月。この1年の学びや経験、そして成長はいかがだったでしょうか。小さな成長、大きな成長様々だと思いますが、一步一步地道な歩みを重ねていくことが大切です。また、18歳には成人となることを踏まえ、精神的な成長も大切となります。学年・ライフステージの変わり目を機会に、御家庭での接し方を改めて考えてみるのも良いかもしれません。

4月にはそれぞれ新たな出会いがあり、新たな生活がスタートします。期待とともに不安もあることと思います。子供（本人）を中心に、関係者が共に手を取り応援していけるよう、コミュニケーションを大切にしていきましょう。子供（本人）を取り巻く応援団を作り育てていくことが将来の支えとなります。

障害がある当事者の子どもたちや御家族のアクションは、誰もが暮らしやすい社会を作るための大きな力となります。コロナ禍が過ぎ、地域活動やお買い物など外出しやすい状況となりました。多くの人から「見える存在」として、本人を取り巻く生活の状況を発信し、子どもたちも社会の一員として、誰もが暮らしやすい社会を積極的につくってほしいと思います。

一年間ありがとうございました。

